COOP SAPPORO CSR REPORT 2018

コープさっぽろ
CSRレポート2018

つなぐ
COOP
SAPPORO

COOP SAPPORO CSR REPORT 2018

コープさっぽろCSRレポート2018

編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任（Corporate Social Responsibility: CSR）の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。

コープさっぽろのCSR活動は、「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けて、コープさっぽろが果たすべき役割は何か、そしてどのような取組を行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

● 報告対象期間

2017年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2018年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2018年3月20日現在のものです。

● ホームページでの情報公開について

コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2017年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。（当該情報に関するホームページの公開は、2018年6月を予定しています）

CSRレポート掲載URL
https://www.sapporo.coop/

● 発行年月および次回発行予定

2018年5月発行。
次回は2019年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先
生活協同組合
コープさっぽろ 秘書室
〒063-8501
札幌市西区発寒11条5丁目10-1
TEL. 011-671-5602

CONTENTS

コープさっぽろの事業と活動 …… 01

特集 地域の課題解決のために
— コープさっぽろとソーシャルビジネス — …… 02

2017年度活動報告

人と人をつなぐ事業の輪 …… 08
人と食をつなぐ事業の輪 …… 12
人と未来をつなぐ事業の輪 …… 18

2017年度環境活動報告

環境理念と環境方針 …… 23
環境活動トピックス …… 24
環境データ報告 …… 28

コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろの伝言（新理念体系） …… 29
基本情報 …… 30
組合員動態 …… 31
事業所数と形態 …… 32
コープさっぽろCSRレポート2018への意見 …… 33

コープさっぽろの事業と活動

社会の問題を解決
コミュニティづくり
助け合い

- コープ宅配システム「トドック」と高齢者見守り（P8）
- 店舗での取組（P9）
- まる元と認知症予防の取組（P10）
- 新フリエホールオープン（P11）
- お買物バス運行（P11）

人と人をつなぐ事業

人と未来をつなぐ事業

人と食をつなぐ事業

北海道の豊かな食文化創造
食育（食べる・たいせつ）
食の安全・安心

- コープ配食サービス（P12）
- 安全・安心な食の提供への取組（P13）
- 食に関する協働の取組（P13）
- 食べる・たいせつフェスティバル（P14）
- 魚の調理教室（P15）
- おしごとキッズ（P15）
- 畑でレストラン2017（P16）
- コープさっぽろ農業賞（P17）
- 酒米収穫体験（P17）

- トドックフードバンク（P18）
- ファーストチャイルドボックス（P19）
- えほんがトドック（P20）
- 大学生育英奨学金（P20）
- 雇用への取組（P21）
- 九州北部大雨災害緊急支援募金（P22）
- 平和スタディツアー（P22）
- 北海道の生協統合10周年記念（P22）
- コープ未来（あした）の森づくり基金（P24）
- ホッキョクグマ応援プロジェクト（P25）
- 再生可能エネルギー普及への取組（P26）
- エコセンターの取組（P26）

特 集

地域の課題解決のために

――コープさっぽろとソーシャルビジネス――

コープさっぽろは全道組織となって10年の節目を2017年に迎えました。
10年の歩みを経て、全道の組合員数は170万人に達し、
各地に拠点・物流網・コミュニティを持って広域のサービスを展開し、
間もなくすべての市町村とも、高齢者見守りをきっかけに連携体制が完成します。
その規模を生かして、各地域が抱える課題の解決に向けた取組を事業として取組む
「ソーシャルビジネス」がコープさっぽろの強みであり、
これから北海道のコープさっぽろとして活動する使命でもあります。

Top Interview

コープさっぽろの持つ資源を生かし「北海道広域」での仕組みづくりへ

**コープさっぽろは地域社会が抱える課題解決に活用できる事業の手法を
これまでの取組の中でたくさん蓄積してきました。
それらを生かすため、今後始める新たな連携のあり方について、大見英明理事長が展望を語ります。**

コープさっぽろ理事長
大見　英明

生協という組織が可能とする北海道への貢献を主とする事業

コープさっぽろの組合員数は、2018年2月1日に170万人に達しました。近年の増加ペースを見ると、数年以内に200万人に達すると予想されます。北海道の人口約537万人のうち170万人が組合員になっていただいたということは、コープさっぽろは一民間組織であるという考えを見直すべき時に来ているのかもしれません。108の店舗や宅配センター、物流、道内全域をカバーするインフラを備えた現在、それらを生かして地域に貢献することが、今のコープさっぽろに求められている役割と思います。

2016年に創立50周年を迎えた際に、コープさっぽろはその理念を再構築しました。その柱に据えたのが「これから北海道にどう貢献できるか」ということでした。北海道に生きることを喜びとする、それを事業で実現することが、新たな社会的使命です。北海道に必要なこと、北海道で生きている皆さんが困っていること、それらの問題をサポートし、解決していける組織にならなければいけません。

生協は非営利の事業であることが強みです。つまり、費用・投資対効果が損益ベースに合い、維持できるビジネスモデルを、いかにつくっていくかということが新しいチャレンジとなります。

人手不足による地方の機能衰退を仕組みの広域化により食い止める

まず北海道における喫緊の問題が人手不足です。これから7～8年の間に、地方での労働力確保の対策を講じなければ、働き手がおらず維持できなくなる機能が出てきます。そうした地方の機能衰退を、コープさっぽろが持っている機能によってカバーしていきたいと思います。

例えば地域にある病院が個別に入院食を提供しようとすると、調達・製造コストがかさんできます。コープさっぽろには調達力、工場、物流の機能があるので、カット野菜など半製品の給食材料をお届けすれば、調理現場の総労働コストを減らせます。それだけでなく、北海道の旬の食材を使って、生きる喜びを感じられる病院給食を提供することにつながればさらに理想的です。

配食事業が病院給食事業と連携できれば、コープさっぽろの全道の配食工場に病院給食施設を設け、疾病別の献立をつくることができます。そのノウハウを配食工場にフィードバックすれば、在宅で療養する方々に向けたお弁当の提供も可能となり、在宅医療の支援にまでつながるでしょう。

コープ配食サービス

こういった取組を進めるに当たっては、広域で取組む仕組みを構築できれば、実現は可能だと思います。しかし、現在は仕組みができている地域とできない地域に分かれ、実態がわかっていないところもあります。現在バラバラに動いているものに横串を通し、全道という広域で仕組みを再構築していくことを、コープさっぽろは追い求めていきます。

コミュニティの力で地域の元気を掘り起こし

2016年からは宅配トドックのセンターに、地域住民の集いの場として「トドックステーション」を設けたところ、例えば中標津地区では500人にメンバー登録していただきました。地域の人口を考えると、驚く人数です。

そこでは古着やおもちゃ、絵本のリユースを行い、フリーマーケットを開催しています。そうして貯まった資金は、木製のおもちゃやお子さまの身長計など、トドックステーション内の設備購入に使っていきます。つまり、皆さんが生活で不要になったものを必要な人へと互いに融通し合い、そこで少額のお金を貯めて皆さんの共通の財産を形成していくわけです。集まることが協働を生み、皆さんが利用する場所の価値が上がっていく。これは一つの協同組合モデルであり、道内各地に広げていきたいと思っています。

トドックステーション

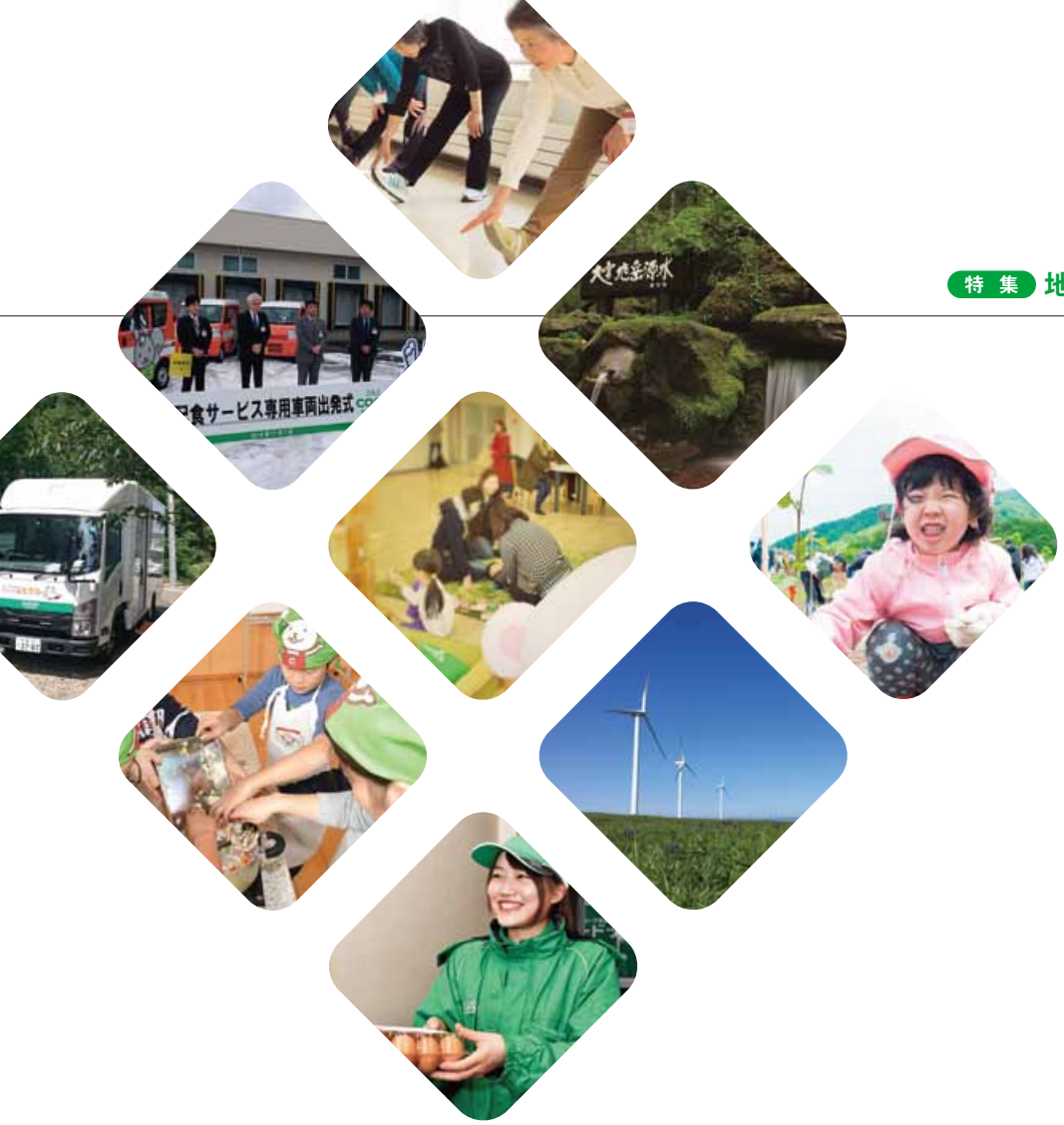
こういった目に見えない価値を生んでいくことは、人と人を「つなぐ」ことから始まると思います。コミュニティが残らない限り、地域も残っていきません。人と人とのつながりを守り、育てていくような活動についても、何ができるのか重点的に考えていきたいと思います。

各市町村と対話を重ね協働のニーズを掘り起こす

コープさっぽろは2013年に北海道と包括連携協定を結びました。それ以前の2010年から毎年各市町村を回って高齢者見守り協定を締結し、まもなく全道市町村との締結が完了します。

2016年には見守りネットワークの核ともなってきた宅配トドックが10周年を迎え、その記念事業としてキャラクターのトドックが全道179市町村を巡って感謝する「トドックスマイルキャラバン179」を実施しました。その際に私たちの役員が同行し、改めて各市町村と協議したところ、非常にさまざまな要望・ニーズが

トドックスマイルキャラバン179



あることがわかってきました。施設・物流・人という経営資源を持つコープさっぽろが、それぞれの市町村の要望に対して、どのように新しい役割を果たし、貢献をしていけるか検討を始めました。

ただし、行政には行政のメカニズム、つまり民間と異なるさまざまな手続きがあります。協働をうまく進めるには、行政側がどのように物事を進めるのか理解し、何ができて、何が難しいのか見極め、コープさっぽろがどう補完できるかを掘り下げる必要があります。

そこで、2018年度からは「地域政策室」を設け、各市町村のニーズに応える活動を始めたいと思います。毎週定期的に市町村と協議を行うことで課題を含め意見交換をして、そこからニーズを掘り起こします。この対話は年間50市町村、3年で全道市町村を周回するペースで進めていく予定です。

各市町村の得意分野を後押しし活気づくりを後押しする

地域政策室の一つの役割として、各市町村の特長、つまり「得意分野」を、コープさっぽろが持つ事業の中でどう機能させていくかということがあります。例えば下川町は林業の町であり、コープさっぽろは環境問題に取組み始めた2008年から、割りばしをすべて下川町の間伐材にしました。今後そういった販路や活路についての相談を専門的に受けられる内部スタッフやセクションを設けていきたいと思います。

そうした連携の事例が一つのモデルとなって、ほかの市町村に広がっていくことも考えられます。また、地域政策室は、官民で相互人材交流しながら活動を進めていく予定です。まずは道内2市町村から職員の出向をいただく予定で、今後どんどん増やしていきたいと思います。依頼があればコープさっぽろ側からも派遣し、民間のノウハウを生かせる場面で力を発揮していきたいと思います。人材交流により、官民相互に検証をした上で物事を進めていき、相乗効果として新たな取組を生み出すことが目標です。

国が地方創生を目指していますが、官庁主導だけでは持続的な取組にしていくのは難しい局面が出てきます。そこを、民間と行政の協働関係をつくり、コープさっぽろもビジネスとして持続性を持った取組としていくことが、コープさっぽろが描くソーシャルビジネスの形です。

特集 地域の課題解決のために

コープさっぽろの進化するソーシャルビジネスが持続可能な地域社会を実現します。

つなぐ
COOP SAPPORO

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

持続可能な地域社会を目指して～SDGsへの取組～

2015年9月の国連サミットにおいて「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」が採択され、すべての人が持続可能な社会の中にあり、経済・社会・環境が一体となって向上した未来を実現するための具体的な目標として「17のゴール」が設定されています。この目標に向けて取組むことにより、コープさっぽろが北海道という地域社会への貢献ができると考えています。続く活動報告ページでは、取組と特に関係性の深い分野をアイコンで表示します。

まる元

詳細▶P10

2014年に開始した、官民学の連携で地域の高齢者の健康維持・介護予防のための運動プログラムを提供する仕組みです。コープさっぽろが健康運動指導士を雇用し、各市町村へ派遣することで、行政が「人材の協同購入」としてそれぞれ人件費コストを減らすことができます。近年は認知症予防に発展をさせ、現在は調査研究も進めています。

コープ配食サービス

詳細▶P12

ご高齢の方の独居や夫婦のみで住む世帯が増えたため、食事の用意が大変なご家庭に夕食を届けるサービスとして2010年に開始しました。2012年からは幼稚園給食、2013年からはカロリーや栄養素の量を調節した健康管理食や経産婦の方のための産後食、2014年からは介護食を導入しました。製造に関するノウハウやインフラを生かし、病院や高齢者福祉施設への給食への拡大も目指しています。また、2017年からは宅配専用車両を導入しています。

移動販売車

詳細▶P12

高齢化と過疎化が進む地方では小売店の存続が難しくなり、遠い店まで通うにも交通手段のない「買物難民」が発生しています。そこでコープさっぽろの店舗を拠点とし、約1,000商品を搭載した専用車両で小売店の少ないエリアを回る移動販売車事業を2010年に開始しました。2016年からは札幌エリアでも運行を開始し、高齢者住宅の巡回などの展開も始めています。

コミュニティづくり

詳細▶P8

コープさっぽろはその設立から、組合員さんの協働を推進し、助け合い支え合う場としてさまざまな形でコミュニティづくりに取組んできました。特に子育て世代の方々が、子育ての悩みや子どもを連れて一緒に集える場として、店舗に子育てひろばを設けてきたほか、2016年からは宅配センターに「トドックステーション」を設けました。また、ご高齢の方々が店舗で休憩しながら交流できる「ちょこっと茶屋」も2015年から開催店舗を増やしています。

トドックフードバンク

詳細▶P18

賞味期限・消費期限を迎えていなくても、流通の仕組みの中で廃棄処分となる「食品ロス」への取組と、児童養護施設の子どもたちへの支援の一環として2016年から開始しました。宅配トドックの返品食品を、児童養護施設に無償提供しています。

高齢者見守り

詳細▶P8

宅配トドックなどで週1回、コープさっぽろの職員が組合員さんの玄関先まで訪問することが、主にご高齢の方の安否確認という見守りの機能を果たしています。2010年から各市町村と「高齢者見守り協定」により体制を築き、遠方家族への見守り機能としての「見守りトドック」や、職員教育の充実など機能を強化してきました。2015年からは70歳以上の独居の方を訪ね、配達についてのサポートや要望をお聞きする「トドックあんしんサポーター」を配置し、2017年度は8,060名のお宅へ訪問しました。現在25名体制で、今後は40名体制へと強化していく予定です。

大雪水資源保全センター

北海道の水資源を将来に向けて守っていくために、東川町で日本の名水百選に選定された「大雪旭岳源水」のボトリング工場を東川町、JA東川などとの共同出資で設けました。2017年度は2月までの売上が約2億9,000万円に達し、コープさっぽろのみならず本州や海外にも出荷して大雪旭岳源水のブランド強化に努めています。

コープ未来の森づくり基金

詳細▶P24

2008年に、組合員さんがレジ袋を辞退した分を基金として積立て、基金活動を進める「コープ未来の森づくり基金」を創設しました。森づくり団体の支援や、組合員参加の植樹祭を開催のほか、子どもたちが森や木製品にふれあう機会を作り、環境教育や木育活動を強めています。

再生可能エネルギー

詳細▶P26

2008年に環境問題に取組み始めてから、エコ店舗や省エネルギー策などさまざまな取組を進めてきました。2011年の東日本大震災からはエネルギーについて再考し、脱原発・再生可能エネルギー推進を掲げています。特に乳畜産業の廃棄物問題の解決にもつなげるバイオガスプラントの開発を七飯町で進め、そのノウハウを活かし清水町にて2019年の稼働を目指し建設中です。

商品のお届けをきっかけに地域を見守り、つながりをつくる

コープ宅配システム「トドック」と高齢者見守り

地域の拠点配置を見直し 組合員との接点強化へ

コープ宅配システム「トドック」は、全道179市町村の35万人超の世帯に、玄関先まで訪問して商品をお届けしています。店舗の少ない地域でも安心して買物ができるシステムです。

現在は組合員との接点を増やし、つながりを強化する取組を進めています。宅配配送センターやデポ（拠点）の配置を見直し、2017年度はエリアが広く配達距離も長くなっていた帯広エリアを分割し、新たに帯広北センターと帯広南センターを設置しました。配達時間短縮・車両削減などの効率化につながり、訪問先での組合員との接点を強化することができました。

■宅配登録人数

352,335名	前年比105.3%

高齢者見守りの輪を全道へ

トドックの地域担当者は、毎週決まった曜日・時間に組合員宅を訪問するため、訪問の際には世帯の見守り機能を発揮することも期待されています。緊急の際の連絡体制をスムーズに行えるように各市町村と「高齢者見守り協定」を締結しており、締結市町村は全道の9割を超えました。引き続き全道179市町村との締結を目指します。

■高齢者見守り実績

高齢者見守り協定締結数	166市町村 （2017年度は21市町村と新たに締結）
2017年度見守り件数	30件

センターを地域の集いの拠点へ 「トドックステーション」増設

これまで一般開放されていなかった宅配配送センターの施設をもっと活用するため、センター内に住民が気軽に交流できるスペースとして「トドックステーション」の併設を進めています。2017年度は新たに手稲、帯広北・南、南空知、旭川南センターの5カ所にオープンし、全9カ所となりました。2018年度も順次オープンを進める予定です。

トドックステーションではまだ使える服、おもちゃ、絵本などを回収し、「トドックフリマ」として安価で販売しています。トドックフリマの収益で、トドックステーション内にお子さんみんなで遊べる「木のおもちゃ」を購入しています。

■2017年度トドックステーション実績

来場者数	9,569名

トドックフリマ回収量（2017年3月～2018年2月26日）

絵本21,315冊　おもちゃ5,275個

トドックフリマ販売実績（2017年4月～2018年2月18日）

絵本339,900円　おもちゃ339,400円　古着101,500円

合計780,800円

高齢化、過疎化などの問題に面する地域で、
商品・サービスをしっかり届けてくらしを守るとともに、
コミュニティづくりによって絆を守ることもコープさっぽろの役割です。

世界初、食品のオートストアを実現へ

2018年8月に江別ドライセットセンターへ、次世代ロボットストレージシステム『AutoStore』を導入します。これはグリッド上のロボットが、高密度に収納された商品の入出庫を行う物流システムであり、食品の取扱いは世界初となります。宅配事業の取扱い20,000SKU（在庫管理単位）へのステップとして8,000SKUの品揃えを実現することで、さらなる組合員満足の向上と利用人数アップを目指します。

日本マーケティング大賞 地域賞を受賞

2017年5月1日に、2016年度の優れたマーケティング活動を表彰する「第9回日本マーケティング大賞」が発表され、宅配システム「トドック」が地域賞を受賞しました。地域賞の選考基準である、優れたマーケティング・プロジェクトであることに加え、経営資源が地域にあること、地域活性化に資すること、地域の特徴を生かした事業であることが評価されました。買物弱者対策としての宅配の重要性や、高齢者見守り機能、トドックフードバンク（P18参照）などの活動が評価され、「トドック」の北海道への高い貢献が形となりました。

日本マーケティング大賞表彰式

Motto つなぐ

店舗での取組

ふかがわ店オープン

築41年が経過した旧店舗を解体、2017年12月1日に新店舗「ふかがわ店」をオープンしました。面積を2倍以上拡大し、840坪の売場面積に鮮魚の対面販売、調理の様子が見える惣菜売場、ドラッグコーナーを設け、ご近所野菜コーナーを充実させました。駐車場では、120台のうち40台を高齢者用駐車スペースとしました。

デリカスイーツ

スイーツブランド「C-Sweets」の販売を2017年5月19日から開始しました。関連会社の工場ではプロのパティシエが製造しており、店舗で本格的な味が手軽に購入できます。2017年度は44店舗で導入し、今後は焼き菓子などさらにラインナップを強化していく予定です。

電子マネー機能付き組合員証　ちょこっとカード

2017年4月から、組合員証やクローバートドックに電子マネー機能が一体となった新カード「ちょこっとカード」の運用を開始しました。買い物の際カードを提示するとポイントが貯まり、現金をチャージして電子マネーでの支払いも可能です。500ポイント貯まるごとに電子マネーに自動的にチャージされるオートチャージ機能もついています。

らくちん当日便

0歳～中学3年生までの子どもを持つ組合員が対象の「ちびっこコープデー」に、新しいサービス「らくちん当日便」が誕生しました。これは店舗で買った商品を精算後に袋詰めし、サービスカウンターで申し込むと当日中に商品が自宅に届くというサービスで、ちびっこコープデー登録者のうち3歳未満の子どもをもつ組合員が利用できます。ちびっこコープデーに約2万人の登録があります。

お取寄せサービス

コープさっぽろでは、通常取扱っていない商品や過去に販売していた商品などを可能な限り探し、取寄せる「お取寄せサービス」を実施しています。2012年6月にスタートし、これまでに約32,000件の依頼をいただきました。中には取寄せ困難なものや、対応に時間を要する場合もありましたが、1件でも多くの希望に応えられるよう今後も精度向上に努めます。

高齢でも、認知症になっても、安心して暮らせる元気な地域へ

まる元と認知症予防の取組

運動を通して地域を元気に「まる元」「ゆる元」を実施

コープさっぽろは、NPO法人ソーシャルビジネス推進センター、北翔大学と協働し「地域まるごと元気アッププログラム」（通称まる元）に取組み、高齢の方を対象にコミュニケーション型運動教室を提供しています。2017年は全道21市町村で69クラスを開催。登録者数は約1,300名になっています。

また、高齢の方が一人でも安全に楽しく運動できるよう、北翔大学が開発した「ゆる元体操」の普及にも取組んでいます。より多くの方に実践してもらえるよう「ゆる元指導者認定講座」を実施。指導者の認定を得た307名（2017年12月時点）とともに、地域で暮らす人々の健康を守っています。

これらの取組が認められ、2017年はコープ共済連から支援金をいただいて活動を進めることができました。

「まる元」はそれぞれの運動能力に合わせて適切な運動を指導します

「ゆる元」は椅子に座ったままでも可能な運動です

健康の輪を広げる「まる元」全道サミット開催

2017年10月、「まる元」を実施している21市町村中17市町村の担当課長、実務担当者に集まっていただき、初の「まる元」全道サミットを開催しました。これは介護予防事業における「まる元」の位置付けや役割とその効果、さらに日ごろの活動について話し合う機会となりました。第1部では実施市町村の担当課長、第2部では実務担当者がそれぞれ熱心に議論を交わし、お互いの「まる元」の進め方について知ることができました。

当日は北海道庁から保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課の後藤琢康地域包括ケア担当課長をはじめ、3名の方にご参加いただきました。ほかにも全国からの生協関係者、「まる元」未実施の市町村、北翔大学や広島大学、銀行関係者、農協関係者など幅広い方々が参加され、総勢95名が集うサミットとなりました。

「まる元」全道サミットの様子

寿都町、北竜町で認知症の調査研究を開始

「まる元」や「ゆる元」が認知症予防に効果があることを示すため、北翔大学と運動プログラムの科学的研究をすすめるべく検討会を重ねてきました。その根拠を示すには多大な研究費と協力自治体を必要とするため実現が困難でしたが、コープ共済連「健康づくり支援企画」の助成によって、認知症の調査研究を進められる体制が整いました。北翔大学の研究チームに2年間の研究費用を提供し、「認知症になりにくいまちづくり宣言」を実施済みの寿都町、北竜町に協力いただいて、70歳以上のご高齢の住民全員を対象に認知機能テストを実施しています。

また昨年は更別村が「認知症になりにくいまちづくり宣言」を行い、宣言済み市町村は9自治体となりました。認知症予防にもっとも重要といわれる早期発見、早期支援につながる活動を、今後も積極的に取組んでいきます。

誰もが元気な社会生活を認知症を学ぶ講演会開催

認知症の正しい知識や予防の必要性を学ぶ「認知症予防講演会」を道内8カ所で開催しました。行政、地域包括支援センター、医師や看護師らを講師に迎え、認知症について学びを深めました。テーマを「人と未来をつなぐ」として注目を集め、総勢826名の参加がありました。各会場では具体的な質問が多数寄せられ、関心の高さがうかがえました。今後は、地域の医師や自治体に協力いただき、より充実した内容の講演会を計画しています。

開催日	開催地	講師	参加者数
4月17日	北　見	北見赤十字病院　院長　吉田茂夫氏	74名
4月21日	室　蘭	登別恵愛病院　院長　森田伸行氏	80名
4月25日	函　館	函館共愛会病院　病棟師長　袴田マキコ氏	82名
5月19日	札　幌	鳥取大学医学部　教授　浦上克哉氏	184名
5月20日	旭　川	鳥取大学医学部　教授　浦上克哉氏	177名
5月26日	釧　路	ナーシングホームコスモス　施設長　三好克枝氏	71名
6月19日	帯　広	ナーシングホームコスモス　施設長　三好克枝氏	95名
6月23日	苫小牧	登別恵愛病院　院長　森田伸行氏	63名

Motto つなぐ

高齢の方々への取組

フリエホール

「コープの家族葬（フリエ）」では、コープさっぽろ直営の葬儀場として札幌市豊平区月寒にフリエホールを設けています。その後組合員からの要望を受け、2017年11月に札幌市北区新琴似に「フリエホールしんことに」をオープンしました。上質で落ち着いた空間、温かい食事の提供、安心の料金プランなどのやすらぎの時間を過ごしていただくコンセプトを大切にしています。「フリエホールしんことに」の内覧会では、地域の組合員が200名以上来場しました。今後は認知度を向上させ、さらなる利用を目指します。

フリエホールしんことに

内覧会の様子

お買物バス

コープさっぽろでは、あかびら店とソシア店（札幌市）でお買物バスの運行を実施しています。あかびら店は店舗の隣に病院があるので、通院を兼ねて買物に利用される方も多くいます。運行ルートは「茂尻・平岸コース」「昭和・幌岡コース」の2コースです。ソシア店の運行ルートは「川沿・中ノ沢・南沢コース」「真駒内コース」の2コースになっています。いずれのバスも組合員証を提示すると無料で利用可能です。

あかびら店のお買物バス

ニーズに応える、安心・健康な毎日の食事

コープ配食サービス

帯広周辺の配食エリア拡充 キャラクター誕生でより身近に

コープさっぽろは2010年10月に「コープ配食サービス」を始め、主にご高齢の方々のみの世帯へ夕食の配達と見守りに取組んでいます。2017年8月には新たに帯広工場が稼働し、配食エリアは拡大。現在は全道の6工場でお弁当などの製造を行っています。サービスの認知度向上のため、2017年に新たにエゾリスキャラクターのネーミングを公募し、応募総数9,509通の中から、名前は「コープの配食クルリン」に決定しました。

新しい仲間として誕生したエゾリスのクルリン

栄養バランスを考えて作る普通食

多様なニーズに応える 健康を守る食事の提供

コープ配食サービスでは、食事に制限がある方のニーズ増加に応え、健康管理食の提供も行っています。カロリー、塩分、たんぱく質を抑えた食事、かむ力や飲み込む力が弱くなった方にも食べやすい食事を提供し、ご利用いただくみなさんの健康を守っています。配食サービスの利用は高齢者だけでなく、幼稚園にも広がっています。食物アレルギーに悩む子どもたちに、みんなと同じような給食を食べさせたいとの声から、「幼稚園給食のアレルギー対応食」の提供も進めています。

冷蔵食品の配達を開始 牛乳・ヨーグルトなども提供

2017年、配達専用車両が全道に導入されました。保冷ケースを置くスペースを統一基準で設けることにより、保冷が必要な商品の提供が可能になりました。ご利用者さんからの「サラダのほかにも牛乳やヨーグルトを届けてほしい」という声にお応えし、2018年3月からはそれらの商品の提供を開始しています。

現在は200台以上の車両で配食と見守りに取組んでいます。食を通じての楽しみや安心を届けられるよう、より一層のサービス向上に取組みます。

高齢者施設にも運行エリア拡大

コープの移動販売車「おまかせ便カケル」

高齢化・過疎化による「買物難民」エリアに住む方を対象に、移動販売車「おまかせ便カケル」を運行しています。全道126市町村を87台の車両が走り、約27,000名の方が移動販売を利用しています。札幌市内では1日約50～60名の利用があります。

2017年度は札幌市西区の運行エリアを拡大。西宮の沢店、二十四軒店を拠点に運行し、西野、福井方面への運行を開始しました。西宮の沢店の車両は、1日4カ所の高齢者施設を訪問し、80～100名の方にご利用いただいています。入居されている方々は、菓子や日用品などを自分の目で見て、手に取って確認し、買物を楽しんでいます。

札幌市内便は今後南区に進出するほか、高齢者施設への運行ルート拡大も検討しています。

生きることは食べることであり、食は健康や幸せを支えます。
生涯、安全・安心な食を、どこにいても食べられるように、
生産者と消費者を結びつけ、食の現場を守っていきます。

品質にこだわり、食卓に安全・安心をお届け

安全・安心な食の提供への取組

平飼い卵取扱開始

現在、EU諸国では、アニマルウェルフェア（動物福祉）の観点からケージ飼いの鶏の卵の販売が禁止に向かっています。日本でも平飼い（放し飼い）の鶏の卵を求める動きが出てきたことから、コープさっぽろ全店舗での取扱いを始めました。道内20生産者と連携し、品質の高い平飼い卵を仕入れ提供しています。

なるほど商品の新ラインナップ

コープさっぽろのプライベートブランド「なるほど商品」に、添加物に配慮した新商品「なるほどバウムクーヘン」を発売しました。製造メーカーさん協力のもと乳化剤を使用せず発売に至りました。余計な添加物を使用せず、昔ながらのやや堅めの食感に仕上がったバウムクーヘンです。

新商品のバウムクーヘン

食物アレルギー配慮商品を充実

食物アレルギーは6歳以下の乳幼児に多く、患者数は年々増加傾向にあるといわれています。コープさっぽろでは、アレルギーに配慮したレトルト食品や調味料などを特設コーナーで販売。2014年度に設置して以降利用率は伸び続け、2017年度は約9,000人／月と、3年で約3,000人／月利用者が増加しています。

アレルギー配慮コーナー

Motto つなぐ

食に関する協働の取組

ファミリーマートと事業連携

コープさっぽろの関連会社コープフーズ（株）は、初のOEM生産受託として、コンビニエンスストア「ファミリーマート」のお弁当やおにぎりなど計20品目の商品の生産を開始しました。2018年2月には約2万2,000パックの恵方巻きを製造するなど、2017年度末時点で、出荷高は月間約6,000万円にのぼっています。コンビニエンスストアのノウハウをコープさっぽろの成長に役立て、より良い商品を提供していきます。

高校生・大学生と食を通して連携

地域の生産者と協力し、地元食材を使ったオリジナルメニューを考案する「高校生チャレンジグルメコンテスト」を2017年も開催。コープさっぽろ賞の「びほろ豚トマトコッペ」（美幌高等学校）と「HAPPY・DON」（北見北斗高等学校定時制ビジネス情報部）を、道内104店舗で販売しました。また、函館短期大学とコラボレーションし、食物栄養学科の学生が考案した弁当を函館市内の12店舗で販売。発売日には店頭での推奨販売を行いました。

北見北斗高校考案「HAPPY・DON」

函館短大考案の弁当

「できるを伸ばす!弁当の日」講演

2017年7月、コープさっぽろ全道統合10周年記念講演として「弁当の日」を提唱する竹下和男氏をお招きしました。「弁当の日」は子どもたちが親の手を借りずに、献立の立案から食材の買い出し、調理、片付けまでを一人で行う活動です。講演で竹下氏は「子どもを台所に立たせない家庭が増えたため、大人や親になっても料理をしない人が増えている」と話し、親子一緒に台所に立つことの大切さを参加者に伝えました。

竹下氏の講演

体験から食の大切さを親子で学ぶ

食べる・たいせつフェスティバル2017

参加型体験プログラムは300種超「食の大切さ」を道内各地へ

コープさっぽろ最大の食育イベント「食べる・たいせつフェスティバル」は、道内の生産者やメーカーを中心に、行政、学校などが出展し、北海道のおいしい「食」や地産地消の大切さを消費者に伝えています。2007年から継続して実施し、昨年で10年目をむかえました。

イベントでは、「食」はもちろん「くらし」や「環境」をテーマに、小さな子どもから大人まで楽しく学べるクイズや簡単な料理など、参加型体験プログラムを数多く実施しています。コープさっぽろは各団体と力を合わせ、プログラム開発と内容の充実に力を入れ、開催地ごとに「参加型体験プログラムコンテスト」を行い、優れた取組を実施した団体を表彰しています。

2017年度は前年よりも34多い、361企画が実施され、延べ47,423回となりました。

地域の人々や生産者に親しまれるイベントへ成長

各会場では、参加型体験プログラムに参加した方々にポイント券（フェス券）を贈呈し、その券を使って買物体験ができる「ラブコープコンビニ」も実施しました。

これらの取組によって、来場者数は昨年に続き過去最高を更新。出展数は600を超え、支援者も4,000人を上回りました。地域の活性化にもつながる食育イベントとして、今後もさらなる内容の充実を図ります。

(株)Mizkan様「作ってみよう!自分好みのドレッシング!」

ホクレン農業協同組合連合会道央支店様「オリジナルのブレンド米をつくろう!」

■地区別開催状況（来場者数、出展・支援者数）

開催日	開催地	来場者数	出展数	支援者数
8月26日	札　幌	7,466	120	1,078
9月16日	北　見	3,621	72	470
	函　館	3,455	65	380
9月23日	苫小牧	3,556	65	405
	室　蘭	2,325	70	450
9月30日	旭　川	4,652	82	540
	釧　路	3,016	60	330
10月8日	帯　広	3,721	87	460
合　計		31,812	621	4,113

【参加型体験プログラムコンテスト結果】

札幌会場	北海道漁業協同組合連合会札幌支店 「いくらの醤油漬けを作れるようになろう」
北見会場	㈱マルキタ　「お魚屋さんのお寿司を握ってみよう」
函館会場	北海道コカ・コーラボトリング㈱　「自動販売機を体験しよう!!」
苫小牧会場	ホクレン農業協同組合連合会道央支店 「オリジナルのブレンド米をつくろう!」
室蘭会場	㈱ホクリヨウ登別営業所 「黄金そだちのたまごを使って茶碗蒸しを作ろう!」
旭川会場	㈱Mizkan　「作ってみよう!自分好みのドレッシング!」
釧路会場	ホクレン農業協同組合連合会釧路支所 「はくちょうもっちーず団子を作ろう!」
帯広会場	㈲あすなろファーミング　「造ろう!食べよう!手造りバター」

参加者の声

- いろいろな体験ができました。
- 商品を知る、とても良い機会になりました。
- 新たな発見があり、子どもだけじゃなく親も楽しめました。
- 体験を通じて食の大切さを実感することができました。

調理技術を学び、魚介をもっと身近な存在へ

魚の調理教室

近年は消費者の魚離れや家庭での和食文化の継承が危ぶまれています。コープさっぽろでは、札幌市中央卸売市場と協力して「魚の調理教室」を開催し、魚や貝のさばき方と調理法を広め、食文化の継承と魚の消費拡大につなげることを目指しています。

4年目を迎えた2017年度の開催数は101回。札幌市内を中心に地方でも開催しました。教室では家庭的な雰囲気の中、ホタテやつぶなどの貝類やごっこのさばき方と調理法を教えています。消費者がもっと気軽に身近な食品として魚を食卓に取入れられるよう、今後も活動を続けます。

親子教室の様子

■2017年度開催状況

調理教室（地方開催含む）	92回	1,200名
親子教室	5回	60名
上級コース	1コース4回	1回10名

仕事体験をきっかけに、食に興味をもつ子どもたち

おしごとキッズ

小学3年生以上を対象とした「本物のおしごと」が体験できる「おしごとキッズ」を食育活動の一環として開催しています。参加小学生はコープさっぽろの店舗で、本物の制服・作業場・道具・食材・商品を使って生鮮商品のパック作りやレジ打ち、商品の陳列などを実践。消費者に購入されるまでの流通の仕組みや、働くことの大変さ、面白さを学びます。

またこの活動では仕事の体験だけでなく、挨拶などの接客マナーを教え、体験の中で取り扱う食材についての学習会を行います。身近な水産物や農産品などについて学ぶことで、食べ物への興味・関心を引き出します。

2017年度は22店舗で開催し、小学生488名の参加がありました。保護者からは、仕事体験を通して子どもの「食」に対する意識が変わったなどの声が聞かれました。

バックヤードで巻き寿司を均等に切る作業

実際にレジに立ち、ポイントカードをスキャン

参加者の声

- お金を稼ぐ大変さを感じてくれたようで、お手伝いを頑張ってくれています。
- 親よりも他人に褒めてもらったことがとても嬉しかったみたいで、将来の夢に近づけるよう頑張りたいと話していました。
- 食品の期限などに興味を持つようになり、お店でも家でもラベルや表示を確認するようになりました。
- 食材の産地を聞いてくるようになりました。
- 嫌いな食べものでも、自分でパック詰めしたものは食べてくれるようになりました。海苔巻きなど家でも作ってみたいと、やる気になっています。

名店のシェフが食材に新たな魅力をプラス

畑でレストラン2017

産地交流を進め 新たな試みでより食材を楽しむ

さまざまな取組によって北海道の食の輪を広げているコープさっぽろは、生産者と消費者を料理で結び付け、道産食材に新たな価値を生み出しています。「コープさっぽろ農業賞」（P17参照）受賞生産者の生産地に、名店のシェフが1日限りのレストランを開くグリーンツーリズム企画が「畑でレストラン」です。厨房設備が搭載されたオリジナルのキッチンカーで出動し、とれたての素材を用いたフルコースのランチを提供します。2017年度は道内の自治体と熱くコラボレーションし、その土地の方々がおもてなしをする「まちスペシャル」、野菜をふんだんに使ったプレートランチやスイーツが楽しめる「畑でcafé」を実施しました。

この企画は食育プログラムの役割も持ち、ランチの前には生産者が農作物や海産物の紹介をしたり、収穫体験をしたりと、農漁業や食材について学べる機会となっています。現在は申し込みが殺到する人気企画として、参加者に好評を得ています。

晴天のもとランチを楽しむ参加者

■2017年度畑でレストラン（通常開催）

開催日	開催地	シェフ	参加者数
6月11日	押谷ファーム	Ricci 川崎律司シェフ	57名
6月18日	美唄市・西川農場	Meli melo 佐藤大典シェフ	53名
6月26日	森町・政田農園	L'oiseau par Matsunaga 松永和之シェフ	48名
7月 2日	苫小牧・四季舎の森フルールブラン	Capri Capri 塚本孝シェフ	46名
7月 9日	恵庭市・余湖農園	TAKU円山 和田勇人シェフ	45名
7月16日	日高町・石崎水産	SIO 佐藤陽介シェフ	40名
7月22日	江別市美原・えみくる	トラットリア・ピッツェリア・テルツィーナ 堀川秀樹シェフ	35名
7月23日	長沼町・麻田農園	スタンダードカフェ 大磯悟バリスタ	47名
7月30日	上富良野町・多田農園	Day's Kitchen 創 笠原大介シェフ	58名
8月 6日	下川町・サッポロビールSP in フレペ	キッチンサポート青 青山則靖シェフ	42名
8月11日	新篠津村・大塚ファーム	寿司・中国料理 福禄寿 松岡洋史総括料理長	46名
8月20日	えりも町・高橋牧場	ippocampo 井藤史晃シェフ	62名
8月27日	浦幌町・高橋農園	ビストロ ポワル 岡田宏佳シェフ	35名
9月 3日	三笠市・鈴木農園	バルコ札幌 金子智哉シェフ	43名
9月10日	幌加内町朱鞠内湖淡水漁業協同組合	幌加内高校&手打ち蕎麦と料理 耳 青木克仁シェフ	41名
9月17日	千歳市・あしだファーム	イル・ソリト 齋藤一シェフ	52名
9月24日	浦臼町・鶴沼ワイナリー	ル・ジャンティオム 大川正人シェフ	44名
10月 1日	札幌市・八剣山ワイナリー	グラヴィータ 平木正人シェフ	44名
10月 8日	新篠津村・大塚ファーム	学生チャレンジ・19歳のレストラン 経専調理製菓専門学校の学生選抜チーム・先生たち	32名
10月 9日	新篠津村・大塚ファーム	大塚さんのベジスイーツcafe 野菜ソムリエ 小川理代さん アットホームトリップ 鳥海俊介シェフ	48名
合計	20回実施		918名

生産者を元気づけ、農漁業に貢献

コープさっぽろ農業賞

北海道の生産者を表彰し 6次産業化も応援

2004年にスタートした「コープさっぽろ農業賞」では、食の安全や環境への配慮、地域・消費者との交流などに取組む農漁業の生産者を表彰しています。行政や各団体に支援をいただき、2017年度に第10回を迎えることができました。農業賞、漁業賞、交流賞に加え、優れた6次産業化の取組を応援する「北海道農業・漁業　ビジネスモデル賞」、過去の受賞者を対象とした「北海道農業・漁業貢献賞」を創設しました。農業・漁業関連の賞に71件の応募があり、27件が受賞しました。受賞者からは「賞を励みに北海道の第一次産業に貢献していきたい」「新規就農者にとって大きな励みになる」などの声が聞かれました。

農業賞の現地審査団

農業賞北海道知事大賞受賞のハスカップファーム山口農園の皆さんと、農園で生産するジャム

生産者から学び 消費者につなぐ事業を展開

コープさっぽろ農業賞を、どのようにして事業に結びつけていくかも大きなテーマです。この取組をきっかけに生産者の販路を広げ、輸送時のCO_2削減にもなる「ご近所やさい」をはじめました。その後も「ぶこつ野菜」「有機野菜」の取扱いを積極的に実施。また、生産者とのつながりを生かし「畑でレストラン」も継続して開催しています。

今後もこうした取組によって、食のあらゆる可能性を見出し、北海道の第一次産業を支えていきます。

十勝の地酒造りに協力、親子で稲の生育を学ぶ

酒米収穫体験

十勝の地酒「十勝晴れ」の原料である酒米「彗星（すいせい）」の収穫体験を2017年9月に開催しました。十勝の地酒造りに取組む「とかち酒文化再現プロジェクト」とコープさっぽろ帯広地区委員会が、食育の一環として2013年から実施しています。

稲刈りには2017年5月に田植え体験をした親子のうち約50名が参加し、稲の生育からお酒になるまでの工程を学びました。酒米と深層地下水を送って醸造している、小樽の田中酒造（株）の見学も行いました。将来は酒米の産地の十勝での醸造を目指しています。今後も子どもたちの食育につながる活動を応援していきます。

田植え体験

小樽の田中酒造（株）亀甲蔵の見学

食品ロスを削減し、食育につなげる取組

トドックフードバンク

返品商品を利用し「もったいない」を解決

食品メーカーや小売店などでは賞味期限が迫った食品や、製造過程で包装、印刷に不具合が出た規格外品などがあります。こうした食品は品質上問題がなくても廃棄処分され、いわゆる『食品ロス』として問題になっています。このような食品を企業から寄付してもらい、福祉施設などへ無償提供する取組をフードバンクといいます。

コープさっぽろでは、この「もったいない」を解決しようと2016年から「トドックフードバンク」を開始しました。宅配トドックで注文ミスなどによって返品された食品で品質に問題のないものを、一次提供先である児童養護施設やファミリーホームに提供しています。同年11月には「トドックフードバンク基金」を設立し、活動の趣旨に賛同する食品関連業社7団体と協定を結んでいます。その結果、2017年度は2016年度の提供量を大きく上回り、提供先の児童養護施設からは喜びの声が聞かれました。また2017年度からはファミリーホーム17施設、児童自立支援施設1施設への提供も始まっています。

情報管理を徹底し適切な食品利用を促す

提供した食品が適切に使用されているかどうか、コープさっぽろは徹底して情報管理を行っています。商品提供時に「商品一覧」を添付し、付合せ確認を行い、一覧の保管を施設に義務付けています。提供品が子どもたちに適切に使用されるためには、施設職員が提供食品を把握して使用計画を立てることが必要です。そのために「自主点検簿」を施設へ配付し、記入と提出を必須にしています。

また、里親や卒園生にも二次提供先として商品を提供しています。その場合は併せて商品提供報告書の提出を求めています。

トドックフードバンクのしくみ

①返品食品が宅配センターへ

品質に問題のない返品食品が、道内各地の宅配センターに集められます。このうち、賞味期限が1カ月以上残っている常温管理の加工食品と冷凍品がトドックフードバンクの提供品になります。

②提供品の受渡し

児童養護施設の職員に、1～2週間に1回のペースで、施設最寄りの宅配センターにて提供品を渡します。

■2017年度活動実績

提供施設数	41施設
提供品	102,320点（4,839万円相当、前年度比156%）
協賛企業からの提供	7団体　1,349万円相当

子どもから大人まで 食育の場としても活動は広がる

トドックフードバンクは「食育」も活動テーマのひとつです。2017年度は11の児童養護施設で「トドックフードキャラバン」を実施しました。子ども料理研究家の（株）のこたべ 能戸英里先生が施設を訪問し、子どもたちと料理を作ることで、楽しさと誰かのために何かをする喜びを伝えています。

また、北海道農政部主催による「もったいない!を考えるおいしいセミナー」をコープさっぽろの協賛で開催しました。10月から11月にかけて3回実施し、それぞれ20名の参加者が集まりました。このセミナーでは食品ロスに関する講話と料理研究家の東海林明子先生によるキッチンイベントを実施。参加者の満足度は高く「また開催してほしい」との声が多く聞かれました。

トドックフードキャラバンで子どもたちと一緒に調理

児童養護施設の卒園を控えた高校3年生が参加する食育イベントも開催

実施施設の声

- フードバンクの食材は多彩で子どもたちの食卓にも変化が起き、大変助かっています。
- はちみつをたくさんいただくので、トーストに使っています。子どもたちから大好評で定番メニューになりました。
- おはぎセットは食育の一環として使用する予定です。
- カツレツは大変美味しく、子どもたちも大喜びでした。次はカツとじにして食べます。
- 先月はお米をたくさんいただきました。在庫が少なくなっていたのでとても助かりました。お米は二次提供している卒園生も喜んでいます。
- 2名の卒園生が来園しました。フードバンク提供品が目当てのようでしたが、元気な顔を見ることができ、安心しました。「近くに住んでいる他の卒園生にも配るね」と、他の卒園生への気配りが嬉しく思いました。

■2017年度トドックフードキャラバン（卒園向け）実績

開催日	参加者数
9月2日	4名
10月7日	7名
11月4日	8名
12月9日	8名
1月6日	9名
合計	36名

■2017年度トドックフードキャラバン（訪問型）実績

開催日	実施施設	参加者数
8月２日	北光社ふくじゅ園	9名
8月３日	羊ヶ丘養護園	15名
8月10日	十勝学園	5名
8月12日	札幌育児園	12名
8月19日	歌棄洗心学園	17名
10月21日	光が丘学園	19名
10月22日	黒松内つくし園	10名
10月28日	櫻ヶ丘学園	20名
11月26日	北光学園	14名
12月３日	柏葉荘	13名
12月10日	旭川育児院	18名
合計		152名

はじめて出産される方へ、子育て支援の贈り物

ファーストチャイルドボックス

北海道命名150周年記念企画の包括連携事業として、2018年4月から第1子が誕生予定の方へ「ファーストチャイルドボックス」を贈る取組を始めました。ベビーケアアイテムやベビー服など、子育てに欠かせないものを初めて出産される方に贈る子育て支援で、フィンランドでの取組をモデルに北海道で実現しました。

コープさっぽろはこの取組をはじめ、マタニティコンサートや離乳食教室など、あらゆる子育て支援を展開していきます。

箱には、安全性・品質・デザイン・サイズにこだわった品が詰め込まれています

2017年度｜活｜動｜報｜告｜

人と未来をつなぐ事業の輪

絵本が育む、親子の絆

えほんがトドック

1～2歳のお子さまがいる子育て世帯に、4カ月に1冊、合計4冊の絵本を無償でお届けする「えほんがトドック」。組合員に大変好評で、2017年度には登録世帯が延べ6万を超えました。絵本を通して親子の絆を育む時間としてほしいという思いから続けています。

また、子どもたちに絵本の楽しさを伝えるため、全道の保育園・幼稚園などで読み聞かせやトドックのステージを行う「えほんわくわくキャラバン」も実施しています。さらに2017年度は、苫小牧市・室蘭市・札幌市・北見市で「絵本でわくわく！ファミリーライブ」を開催し、NHKの番組「おかあさんといっしょ」へ数多くの楽曲を提供している創作遊び作家　たにぞうさんのステージを行いました。全会場が満員になり、札幌は追加公演を開催するほどの盛況を博しました。

■2017年度えほんがトドック実績

2017年度登録者数	9,938名
延べ登録世帯	61,403世帯
延べ配布冊数	310,623冊

えほんわくわくキャラバン

訪問園数	128施設
参加園児数	11,380名

※2012年からの累計訪問数は578施設

絵本でわくわく！ファミリーライブ 参加者計

おとな	1,343名
子ども	1,067名

※4会場の総数

返済不要の奨学金で大学生と家族を支える

大学生育英奨学金

2017年4月より、勉学意欲のある学生とその家族を支援することを目的に「大学生育英奨学金」を創設しました。近年は家計に占める学費負担の増加、低賃金労働などにより、奨学金返済に苦しむ人が増え大きな社会問題となっていますが、大学生育英奨学金は卒業後の奨学金返済が不要な「給付型」。給付額は年25万円で、毎年申請をすると1人につき4年間最大100万円が給付されます。

対象となる学生は、コープさっぽろの店舗や工場、事業所などでアルバイト就労ができること、学生本人が組合員であることもしくは組合員に加入できることが条件です。実際に奨学金を利用し、アルバイトを経験した学生からは「さまざまな年代の先輩方や組合員さんと一緒に働くことで、コミュニケーション力がアップし、社会に出たときに役立つ経験になった」との声が聞かれます。

■2017年度大学生育英奨学金実績

奨学金利用者数	201名（2018年3月時点）
制度を利用したアルバイト採用人数	284名

コープさっぽろはこの取組をアルバイトの継続雇用につなげ、現場の労働力の安定も目指しています。学び働く意欲のある学生の存在は、店舗や事業所の現場を活気づける相乗効果にもつながっています。

働きやすい職場環境の整備と安定した雇用の継続

雇用への取組

ワークライフバランスの取組

札幌市東区の元町店に設置されたコープさっぽろ保育園「aurinko（アウリンコ）」は2017年に開園5年目を迎えました。認可保育園として、コープさっぽろで働く職員の子どもと地域で暮らすお子さんを受入れ、一緒に保育しています。2017年4月には江別市野幌に白樺アウリンコを開園。今後は札幌市内と釧路市内に開園を予定しています。

また育児と仕事を両立している職員には、育児短時間勤務を1子につき3年まで設けていましたが、これを5年までに延長しました。

このほか管理職の年次有給休暇を増やすなど、働きやすい職場づくりを今後も推進していきます。

白樺アウリンコ

外国人技能実習生の受入れ

コープさっぽろでは、石狩と江別の食品工場で、中国・ベトナムから外国人技能実習生を受入れています。研修では工場のルールや衛生管理などを徹底して指導した後、各工場で実務教育を行います。近年ベトナムからの実習生が増えているため、業務基準書やその動画をベトナム語版で作成し、研修内容がより伝わるようにしています。

また、実習生が日本の文化にも触れられるよう、休日を利用した取組を行っています。江別工場では江別市や自治会の協力で日本語学習会を開催したり、市・国際交流センターの催しに実習生が参加できるようにしています。

■2017年度
外国人技能実習生実績

受入れ数	159名

職員の個性と ライフスタイルを尊重

多様な人材を受入れるダイバーシティが注目され、人材確保のためにも実現に向けた取組を行う企業が増えています。コープさっぽろでは、ダイバーシティ相談員を5名選定し、職員から働き方についての相談受付を始めました。

また、障がい者雇用にも注力しており、特にグループ企業の北海道はまなす食品（株）は「障害者就労支援企業」として北海道の認証を得ており、知的障がいのある職員19名が働いていますが、2017年からジョブコーチによる支援を強化しています。

グループ全体での雇用率5%に向けてノーマライゼーションを推進していきます。

■2017年度障がい者雇用実績

人数	400名
雇用率	4.85%

人材確保の取組

コープさっぽろは選ばれる職場となるため、さまざまな取組を行っています。2017年11月、12月には、関連会社であるコープフーズ、エネコープなどの7社が、就職活動中の学生を対象とした採用説明会を初開催しました。グループ会社とともにコープさっぽろのブランド力を強めていく狙いです。

有期契約者の安定した長期雇用を目的に「無期転換制度」を考案しました。契約期間が通算5年を超えた契約職員、パート職員、アルバイト職員のうち、希望者に限り無期労働契約を結ぶことが可能です。実際の導入は2018年4月を予定しています。

合同説明会の様子

2017年度｜活｜動｜報｜告｜

人と未来をつなぐ事業の輪

九州北部の被災者へ緊急募金を実施

九州北部大雨災害緊急支援募金

2017年7月、福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した豪雨は周辺地域に甚大な被害をもたらしました。コープさっぽろは被害に見舞われた方々を支援するため、7～8月にかけて全店舗の店頭および宅配システムトドックにて緊急支援募金を実施しました。多くの組合員の方に協力いただき、募金総額は2,021万8,221円となりました。

寄せられた募金は日本生活協同組合連合会を通じ、義援金として被災者へ届けられるほか、支援金としても活用されます。

子どもたちに平和を継承

平和スタディツアー

戦争・被爆体験を次世代に引き継いでいく活動として、コープさっぽろでは子どもたちに平和を考えてもらう機会をつくっています。平和スタディツアーでは、「子ども平和大使」として全道各地から選ばれた中学生・高校生が、毎年8月に広島県と長崎県を訪れ「広島平和記念式典」に参加します。

2017年度は、組合員の方々から約294万円の募金協力をいただき、広島へ8名、長崎へ6名が参加しました。参加した学生は、現地で得た学びや教訓を学校や地域の報告会で発表し、平和への思いを伝えました。

「ひと」「もの」「こと」で北海道をひとつに

北海道の生協統合10周年記念

2007年、道内の各地区でそれぞれに運営していた生協をコープさっぽろに統合しました。一つになったコープさっぽろはその後10年をかけ、「大きくて豊かなつながり」を築いてきました。2017年は統合10周年を記念して「北海道をひとつに『つなぐ』CM」を制作。CMソングは北海道出身のシンガー福原美穂さんより、楽曲「GRACE」を提供いただきました。

コープさっぽろは「社会貢献に取組むこと」「組合員さんとのつながりを大切にすること」をミッションに、これからの高齢化社会、買い物難民の増加、食品ロス、環境問題などに取組みます。

2017年度

環境活動報告

コープさっぽろは2008年の洞爺湖サミットを機に、
環境活動を一層推し進めています。
事業活動の環境負荷を減らす取組はもちろんのこと、
組合員に環境問題を伝えて意識を高め、
共に活動を進めることで、
事業活動そのものが環境に役立つ
しくみづくりを考え、進めています。

環境理念

コープさっぽろは、組合員への「7つのお約束」を基本にして、
組合員、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かなくらし」のために平和を追求し、
人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。
コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、
持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムトドック・共済などの事業を通じ
組合員に安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、
北海道全体の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

①事業における汚染の予防に取組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。

③この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。

④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取組について定期的に公表します。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取組みます。
- 組合員の声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取組みます。

環境活動トピックス

2017年度も事業活動の環境負荷低減や、組合員の環境意識を高めるための取組に注力しました。その一部をご紹介します。

完成した「あすもり座」

コープ未来の森づくり基金（あした）

10年目を迎えた、組合員と共に進める森づくり「コープ未来の森プロジェクト」

店舗でレジ袋を辞退された分を積立て、森づくりに活用する「コープ未来の森づくり基金（あすもり）」は、2008年7月21日に設立して10周年を迎えました。これまでに全道で組合員20,451人のご参加のもと、88,321本の植樹をしてきました。

2017年度は、北海道水産林務部森林活用課の「ほっかいどう企業の森林づくり」を通じ、4月17日に赤井川村と、5年間でカラマツの苗2,000本を植樹する協定を結びました。植樹するのは、一昨年の暴風で樹木が倒れた村有地1ヘクタールです。5年間植樹を行い、その後4年間苗の育成を助けるための下草刈りなども行っていきます。また、7月26日に京極町との協定を結び、コープの森は全道16カ所となりました。

■開催実績

コープの森植樹祭	4,647本
ぎょれん魚付林植樹	2,495本
その他	456本
合計	7,598本

赤井川村村長にも「あすもり座」に参加いただきました

あすもり10周年を記念して、2017年度の植樹祭は「リレー植樹」を行いました。みんながつながって育てる森づくりであることを、16カ所のコープの森を星座にたとえた1枚の大きなアート「あすもり座」に表し、各地区の植樹祭参加者1,000名と共に制作しました。

赤井川村で開催された植樹祭の様子

ホッキョクグマ応援プロジェクト

動物園との協働で環境意識を育てる

コープさっぽろでは、宅配システムトドックのイメージキャラクターがシロクマであることにちなんで、2009年より道内4動物園と「ホッキョクグマ応援プロジェクト」を協働で進めています。絶滅危惧種であるホッキョクグマの理解を深め、環境意識を高めることを目的に園内に啓発パネルを設置しています。2017年度からは、動物園で開催される環境教育情報のプラットフォームとなる「トドック探検隊」の取組をスタートしました。

また、2009年より「エコ協賛キャンペーン」を実施しており、「エコプロジェクト協賛商品」1品の売上に対し2円を協賛金として本プロジェクトとコープ未来の森づくり基金に役立てています。2017年度は10月1日～11月30日に実施し、322万548円の協賛金が各プロジェクトで活用されています。

■2017年度ホッキョクグマ応援プロジェクト協賛金

動物園（協定締結年月日）	贈呈式日時	2017年度協賛金額	2017年度事業内容
札幌市円山動物園（2009年4月27日）	2017年4月30日	300万円	● 年間パスポート広報費 ● 環境教育イベント（夏休み宝探し、バックヤードツアー）
旭川市旭山動物園（2013年4月27日）	2017年6月4日	200万円	● トドックパネル設置 ● 環境教育イベント（夏休み宝探し、北極冒険家荻田さん・坂東園長 旭山Zooキャンプ）
おびひろ動物園（2010年8月10日）	2017年6月30日	200万円	● トドックパネル設置 ● 環境教育イベント（夏休み宝探し、出発式植樹）
釧路市動物園（2011年11月23日）	2017年6月24日	200万円	● トドックパネル設置 ● 環境教育イベント（夏休み宝探し、工作教室ほか）

夏休み宝探し

2015年度、2016年度に実施した園内探索型イベント「コープ探検隊」を、もっと子どもたちが楽しんで学べる内容の「夏休み宝探し」としてリニューアルしました。動物園内を巡って環境や動物について学べる問題に答えていくクイズラリー形式で、クリアした子どもたちは抽選箱から「お宝」がもらえるほか、ダブルチャンスとして抽選プレゼントに応募できるイベントです。クイズシートは4動物園それぞれ異なるものとしました。小さいお子さんでも十分に楽しめるよう、設問の難易度は下げ、1問だけでクリア可能として参加率を高めました。

■参加者数

7,000名（ゲームブック配布数）	
ダブルチャンス応募数	1,045件

※いずれも4園合計

エコ協賛キャンペーン バックヤードツアー

エコプロジェクト協賛商品を購入した方に抽選で、4動物園でのバックヤードツアーを実施しました。参加者は飼育員の案内により普段入れない動物園の裏側を見て、動物たちの生態に合わせたさまざまな飼育の工夫・配慮を知ることができました。

■参加者数

札幌市円山動物園（2018年1月13日開催）	9組 23名
おびひろ動物園（2018年1月20日開催）	3組 8名
釧路市動物園（2018年1月21日開催）	5組 19名
旭川市旭山動物園（2018年1月27日開催）	7組 19名

トドック探検隊

2017年度環境教育情報をつなぐプラットフォーム「トドック探検隊」をスタートし、動物園やコープさっぽろ等主催の対象環境教育プログラム408件を発信し、7,473名様にご参加いただきました。

環境活動トピックス

再生可能エネルギー普及への取組

清水町美蔓バイオガスプラント建設へ

コープさっぽろは再生可能エネルギーの導入を推進しています。その中の一つが、乳牛のふん尿や食品残渣、使用済み食用油などからバイオガスを生成し、それを燃料として発電するバイオガスプラントです。酪農生産者を悩ませるふん尿処理の問題の解決方法でもあり、2011年から技術の実用化を目指し、NEDOとの共同事業として、七飯町大沼にバイオガスプラントを建設して試験稼働を行ってきました。

そこで得たさまざまな経験とノウハウを生かし、十勝清水町でのバイオガスプラント建設計画に、コープさっぽろの子会社でエネルギー事業を扱う株式会社エネコープが基本計画・コンサルティング担当として加わりました。2017年に地域の酪農家9名と十勝清水町農業共同組合によって、運営主体となる「十勝清水バイオマスエネルギー株式会社」が設立され、2019年7月完成、8月からの売電開始に向けて計画を進めています。

エコセンターの取組

環境情報発信の拠点「トドックエコステーション」誕生

コープさっぽろエコセンターは、全道の事業所や組合員の家庭から回収した資源物を回収して一括集約し、中間加工を行ってリサイクル工程へと送るためのリサイクル施設です。2008年の稼働以来、コープさっぽろの環境活動の拠点として活躍しています。

トドックエコステーション

エコセンターでは、行政、企業、一般の方々など年間800名を超える方の見学・視察を受け入れています。2017年10月1日、エコセンター内に環境教育の拠点として「トドックエコステーション」を開設しました。これにより年間視察者の受入能力は2,000名まで強化されるとともに、リサイクルのことだけではなく植樹や食品ロス、再生可能エネルギーなど環境や食に関わる情報や、それに関わるコープさっぽろの取組を発信できるようになりました。施設は未完成の状態で開設し、職人と参加型のワークショップによってつくり上げる形としました。

トドックエコステーションは、酪農学園大学など、環境活動を行う諸団体に無料で開放することで、幅広い環境教育を展開し地域社会に貢献していきます。

40名までの団体も受入可能に

オープニングセレモニーでは、三好江別市長と野幌小学校の児童の皆さんをお招きしました

カラートレーのペレット燃料化を開始

コープさっぽろの店舗から排出される食品プラスチックトレーのうち、カラートレーはリサイクルができないため、これまでは廃プラスチックとして処分していました。2017年12月1日、このカラートレーを再資源化するために、廃プラスチックリサイクルシステムをエコセンターに導入しました。

回収したカラートレーは、熱可塑性樹脂減容機でペレット燃料とします。毎時50kgの処理能力があり、年間で最大180tのペレット化が可能です。廃プラスチックをダイレクトにペレット燃料化するのはエネルギーロスが少なく、ダイオキシン排出数値は環境省の規制数値の100分の1まで抑えられています。

製造したペレット燃料は、樹脂系固形燃料ボイラーで使用し、エコセンターの廃食油コーナーの床暖房と廃食油加温のために使用しています。トラック搬入口が横にある廃食油コーナーは冬期間の作業環境が厳しい場所だったため、事業所から回収した資源で改善につなげられています。

（写真上）熱可塑性樹脂減容機（ペレタイザー）、（写真左下）製造されたペレット、（写真右下）樹脂系固形燃料ボイラー

コープさっぽろの資源回収

コープさっぽろは、店舗や事業所から出る資源物のほか、宅配トドックの戻り便を利用して、組合員の家庭から出る資源物も回収しています。回収量は毎年増加しており、2017年度は33,186tの資源物を回収しました。これは18,309tのCO_2削減に相当します。

■エコセンター回収量

（単位：t）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2016年比
ダンボール	16,870	16,617	16,991	17,602	17,598	100%
紙パック	289	292	280	283	276	98%
週刊トドック	8,262	8,950	9,948	11,041	12,085	109%
新聞紙	976	975	983	1,000	954	95%
発泡	416	384	411	388	375	97%
ペットボトル	60	58	61	66	47	71%
スチール缶	30	27	18	24	16	67%
アルミ缶	44	44	46	58	68	117%
PPバンド	41	40	42	44	43	98%
内袋	128	125	117	116	116	100%
廃食油	722	769	807	849	861	101%
古着古布	—	21	671	728	747	103%
合計	27,838	28,302	30,375	32,199	33,186	103%

古着回収の売上げを北海道ユニセフ協会に募金

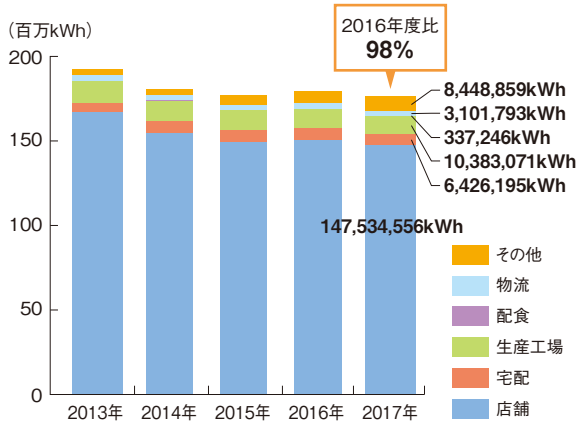
2014年3月より、宅配トドックの資源回収で古着回収を行っています。回収した古着はカンボジアでのリユースや、工業用ぞうきんにリサイクルされています。2017年度もこの古着販売による売上金のうち、150万円を北海道ユニセフ協会に募金しました。

環境データ報告書

温室効果ガス、主にCO_2排出量の削減は、地球温暖化防止のため、事業体すべての大きな課題です。
コープさっぽろは省エネルギーと、再生可能エネルギーの積極的な利用に取り組んでいます。

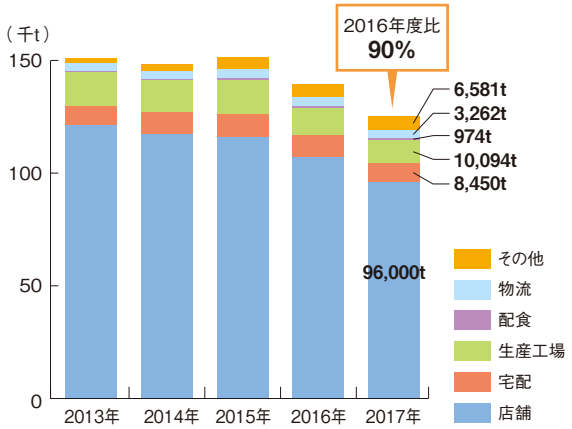
電気使用量

店舗はエアコンの室外機の洗浄や、夜間の照明点灯時間の管理など運用面での管理を徹底することで、昨年度よりも電気使用量を削減することができました。



CO_2排出量

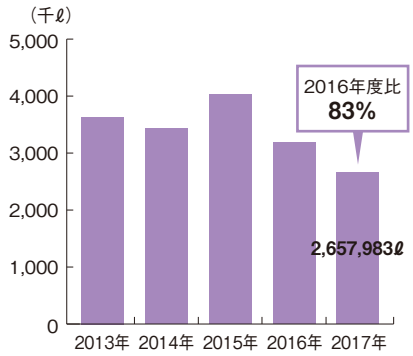
電気使用量の削減とCO_2排出係数の低い電力を選択的に購入することで、エネルギー使用によるCO_2排出量を削減しています。



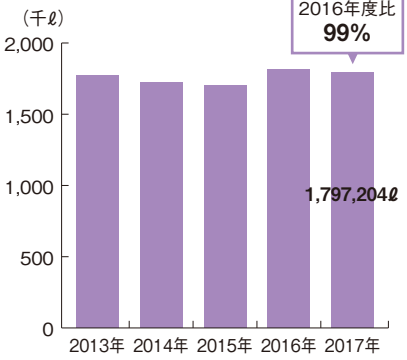
エネルギー使用量（電気以外）

環境負荷の少ないエネルギー源へと使用を順次切り替えています。

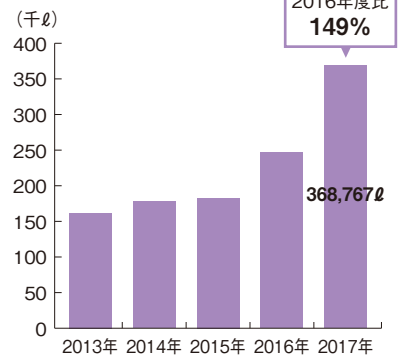
重油



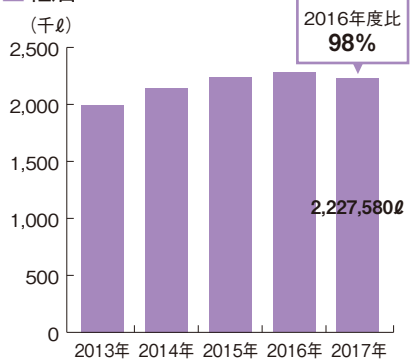
灯油



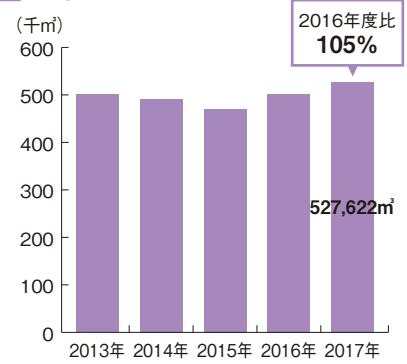
ガソリン



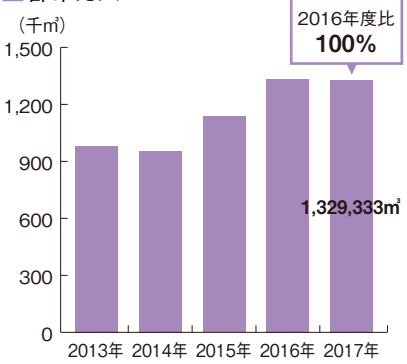
軽油



LPG



都市ガス



コープさっぽろの組織概要

COOP SAPPORO OUTLINE

コープさっぽろの組合員数は170万人に達しています。創立50周年を機に設けた、新たな理念を合い言葉とし、北海道の地域社会と、皆さまの生活により貢献していくことを目指します。

コープさっぽろの新しいマーク

つなぐ

COOP SAPPORO

組合員や職員の強い願いや思いから生まれた新しい取組に掲げる、「安心」と「革新」の旗印です。
安全・安心を感じ、新鮮で若々しく、生命力を感じるコープグリーンを全道中へと広げていきます。

コープさっぽろの伝言（新理念体系）

コープさっぽろの合い言葉	つなぐ
コープさっぽろの理念	北海道で生きることを誇りと喜びにする。
コープさっぽろの使命	「安心」と「革新」
各事業の考え方	「店舗」……いのちの基本である「食」を大切にする。 「宅配トドック」……笑顔をとどけ、笑顔をいただく。 「移動販売車カケル」…どこまでも買物の楽しさと便利さを載せて行く。 「社会給食」……健康と成長を見つめる仕事。 「エネルギー」……北海道で自立して持続可能な再生エネルギーを推進する。 「水工場」……北海道のかけがえのない資産を預かっている。 「共済」……助けあいの心を、ひとつにする。 「フリエ」……家族のひとりとなり、家族のひとりをお見送りする。 「トラベル」……人生という旅をさらに豊かにする。 「生活文化事業」……学ぶ喜びを生涯の楽しみにする。
コープさっぽろが大切にすること	わかちあう　ささえあう　おもいあう　たすけあう まなびあう　ふれあう　たたえあう

基本情報

名　　称	生活協同組合コープさっぽろ （生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更）
創立年月日	1965年（昭和40年）　7月18日
創業年月日	1965年（昭和40年）　10月1日
本　　部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員（常勤）	●理事長　　大見　英明 ●専務理事　　中島　則裕 ●常務理事　　岩藤　正和 ●常務理事　　会田　彰 （2018年3月現在）
活動エリア	北海道全域（定款）
組合員数	1,709,000名（2018年3月20日） （北海道の世帯数　2,761,826世帯）（2017年1月末） 組合員組織率　61.9% （札幌市53.2%、旭川市72.6%、函館市71.4%、石狩市79.5%など）
出資金	698億2,711万円（2018年3月20日）
事業高	2,820億3,177万円（合計）（2017年3月21日～2018年3月20日） 1,915億7,889万円（店舗事業） 840億6,884万円（宅配事業） 17億7,484万円（共済事業） 46億918万円（その他）
従業者数	正規職員　　2,157名 契約職員　　1,932名 パート・アルバイト　10,804名 従業員数は子会社含む数値（2018年3月20日現在）

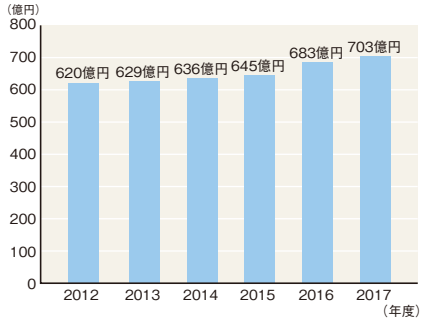
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

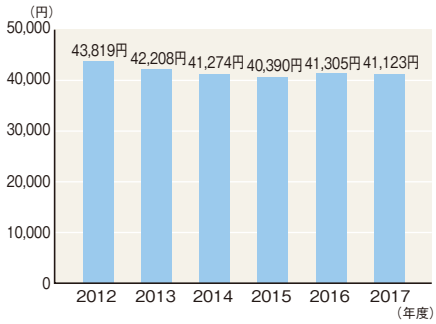
項目／年度	金額（千円）	前年比増加額（千円）	増加率（%） 前年比	増加率（%） 2012年度比
2012	62,015,189	334,600	101	100
2013	62,917,555	902,366	102	102
2014	63,697,955	780,400	101	103
2015	64,466,901	768,946	101	104
2016	68,344,865	3,877,964	106	110
2017	70,278,859	1,933,994	103	113

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。
定款上の出資金（1口千円単位）は69,827,115千円です。

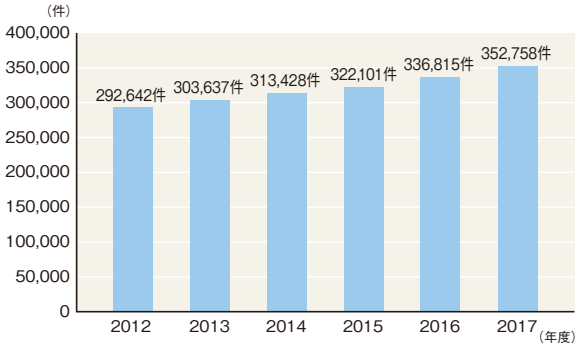
■年度別出資金残高



■1人当たりの平均出資金

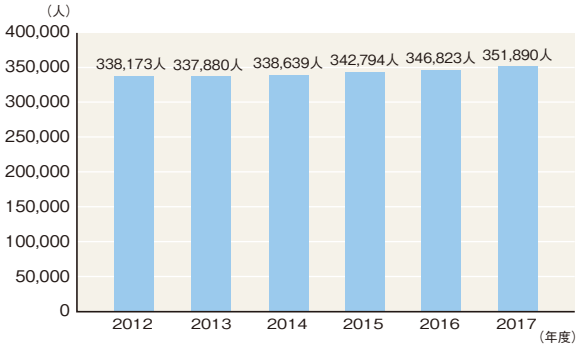


資料 宅配（トドック）の参加状況



資料 CO・OP共済の状況

■《たすけあい》共済の加入者数



組合員動態

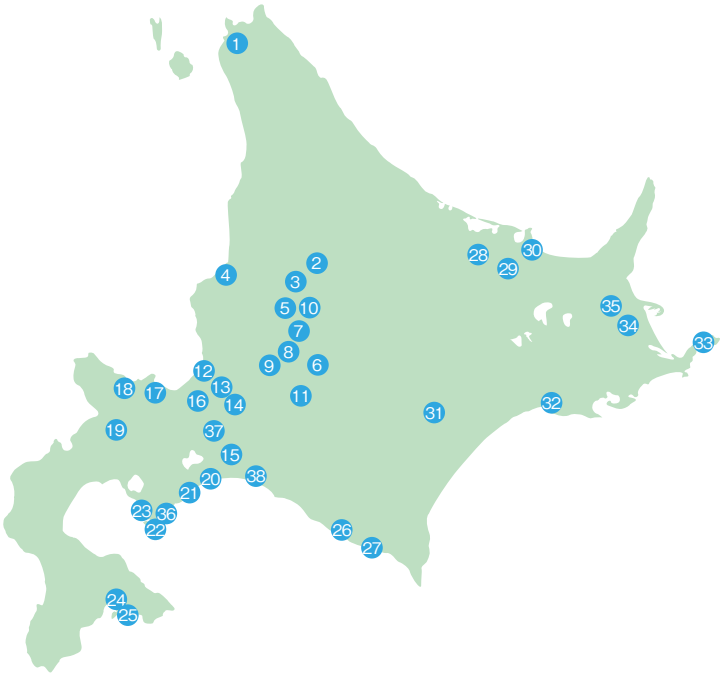
都市別組合員組織率

1,709,000名(61.9%)	2,761,826世帯

組合員数(組織率)　総世帯数

組合員数は2018年3月20日現在の登録で表記しています。
世帯数は2017年1月末の住民基本台帳を使用しています。

1	稚内市	5,067名(27.8%)	18,254世帯
2	旭川市	128,902名(72.6%)	177,609世帯
3	深川市	9,648名(87.6%)	11,018世帯
4	留萌市	10,806名(91.6%)	11,798世帯
5	滝川市	13,756名(63.9%)	21,539世帯
6	富良野市	10,481名(95.3%)	10,994世帯
7	砂川市	7,438名(83.0%)	8,957世帯
8	美唄市	12,083名(101.2%)	11,942世帯
9	岩見沢市	31,582名(75.2%)	41,978世帯
10	赤平市	5,738名(93.8%)	6,118世帯
11	夕張市	4,533名(90.5%)	5,009世帯
12	石狩市	21,762名(79.5%)	27,370世帯
13	江別市	36,475名(65.1%)	56,061世帯
14	北広島市	22,831名(84.3%)	27,095世帯
15	千歳市	22,036名(46.0%)	47,901世帯
16	札幌市	552,376名(53.2%)	1,037,733世帯
17	小樽市	49,100名(75.8%)	64,818世帯
18	余市町	8,544名(84.9%)	10,060世帯
19	倶知安町	7,613名(84.6%)	8,997世帯
20	苫小牧市	63,102名(72.3%)	87,334世帯
21	白老町	8,717名(90.9%)	9,586世帯
22	室蘭市	24,329名(52.2%)	46,600世帯
23	伊達市	8,296名(46.4%)	17,868世帯
24	北斗市	14,735名(66.9%)	22,032世帯
25	函館市	102,458名(71.4%)	143,561世帯
26	新ひだか町	8,684名(73.4%)	11,836世帯
27	浦河町	7,722名(114.1%)	6,767世帯
28	遠軽町	10,630名(101.0%)	10,523世帯
29	北見市	41,053名(66.7%)	61,524世帯
30	網走市	14,467名(78.3%)	18,469世帯
31	帯広市	44,531名(51.5%)	86,534世帯
32	釧路市	64,764名(68.3%)	94,793世帯
33	根室市	7,127名(55.6%)	12,810世帯
34	別海町	4,702名(70.8%)	6,645世帯
35	中標津町	6,546名(59.1%)	11,084世帯
36	登別市	15,777名(63.3%)	24,940世帯
37	恵庭市	15,787名(48.9%)	32,304世帯
38	むかわ町	4,106名(95.1%)	4,318世帯
表記以外の市町村合計		280,696名(62.8%)	447,047世帯



■年度別組合員動態

年度＼項目	組合員数(人)	前年比増加数(人)	増加率(%) 前年比	増加率(%) 2012年度比
2012	1,415,265	23,713	102	100
2013	1,490,640	75,375	105	105
2014	1,543,280	52,640	104	109
2015	1,596,125	52,845	103	113
2016	1,654,657	58,532	104	117
2017	1,709,000	54,343	103	121

※2013年3月20日、住所不明・未利用者995名を法定脱退処理しました。
※2014年3月20日、住所不明・未利用者696名を法定脱退処理しました。
※2015年3月20日、住所不明・未利用者308名を法定脱退処理しました。
※2016年3月20日、住所不明・未利用者176名を法定脱退処理しました。
※2017年3月20日、住所不明・未利用者434名を法定脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率

中央区	46,158名(33.4%)	138,157世帯
北　区	82,600名(55.3%)	149,384世帯
東　区	60,794名(43.4%)	140,160世帯
白石区	69,234名(58.1%)	119,225世帯
豊平区	61,388名(49.9%)	123,015世帯
南　区	59,570名(82.3%)	72,407世帯
西　区	58,678名(52.9%)	111,026世帯
厚別区	37,004名(57.9%)	63,929世帯
手稲区	44,963名(66.3%)	67,856世帯
清田区	31,987名(60.8%)	52,574世帯

※札幌市行政区を限定しない組合員さんが2名いらっしゃいます。

事業所数と形態

本部

本部	1
地区本部	8（帯広、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川、札幌）

店舗

108店舗（2018年3月20日現在）28市18町

札幌市	25店舗	留萌市	1店舗	白糠町	1店舗
江別市	2店舗	函館市	9店舗	中標津町	1店舗
北広島市	2店舗	北斗市	1店舗	北見市	3店舗
石狩市	1店舗	苫小牧市	5店舗	網走市	1店舗
千歳市	2店舗	伊達市	1店舗	遠軽町	2店舗
小樽市	3店舗	木古内町	1店舗	美幌町	1店舗
余市町	1店舗	幕別町	1店舗	帯広市	2店舗
倶知安町	1店舗	むかわ町	1店舗	室蘭市	2店舗
岩見沢市	2店舗	白老町	1店舗	赤平市	1店舗
美唄市	1店舗	新ひだか町	1店舗	別海町	1店舗
夕張市	1店舗	浦河町	2店舗	登別市	3店舗
旭川市	8店舗	えりも町	1店舗	恵庭市	1店舗
深川市	1店舗	様似町	1店舗	福島町	1店舗
砂川市	1店舗	釧路市	6店舗	羽幌町	1店舗
滝川市	1店舗	根室市	1店舗		
富良野市	1店舗	釧路町	1店舗		

コープ宅配システムトドックセンター

32センター8デポ（2018年3月20日現在）

移動販売車

87台（全道126市町村）

生産工場

- 江別生鮮加工センター
- 石狩食品工場
- 江別食品工場
- 配食札幌工場
- 配食苫小牧工場
- 配食旭川工場
- 配食釧路工場

リサイクル施設

- エコセンター

葬儀場

- フリエホールつきさむ
- フリエホールしんことに

関連会社

- コープフーズ株式会社
- シーズ協同不動産株式会社
- シーズ協同開発株式会社
- 株式会社エネコープ
- コープ協同保険株式会社
- 北海道はまなす食品株式会社
- デュアルカナム株式会社
- 有限会社コープ協同サービス
- 有限会社ドリームファクトリー
- 株式会社大雪水資源保全センター
- 北海道ロジサービス株式会社
- コープトレーディング株式会社
- 株式会社トドック電力
- 株式会社コープトラベル

2017年度の新工事

2017年4月	保育園白樺アウリンコ（開園）
2017年8月	帯広南センター（移転分割）
	帯広北センター（移転分割）
2017年10月	トドックエコステーション（開設）
2017年11月	フリエホールしんことに（開設）
2017年12月	ふかがわ店（移転新設）

◀トドックエコステーション

コープさっぽろCSRレポート2018への意見

学校法人札幌大学　理事長
荒川 裕生氏

コープさっぽろが進めてこられた食の安全安心や食育、再生可能エネルギー、さらには高齢者の見守りといった先駆的活動は、地域の暮らしや社会に大きく貢献してきました。また、食と農がシェフの方々の優れた技で結ばれる「畑のレストラン」という素敵な取組など、それぞれの活動は進化を続けています。「地域課題の解決」をテーマとするCSRレポート2018では、こうした活動の全体像が分かりやすく示され、その「広がり」と「深まり」を実感することができました。

今、地域が直面している課題は、何よりも人口減少・高齢化への対応です。札幌圏でも、開発が早かった街では高齢化が進み、地方では急速な人口減が切実な問題となっています。人口や産業の札幌集中は大きな流れですが、一方で札幌の将来も北海道全体の農林水産業とその関連産業の行方に大きく左右されます。若者の流出抑制や道外からの移住促進など人口減少に少しでも歯止めをかけることは当然ですが、人口減少を前提とした持続可能な地域社会の仕組みを確立していくことがもっとも重要です。

住み続けていくためになくてはならないもの、それは毎日の食事、健康、教育、資源エネルギー、自然環境、それを支える産業、交通、物流などです。このレポートの2ページにある緑色の9枚のカードはこれらを幅広くカバーしており、国連が提唱するSDGs（6ページから7ページの上段に紹介）にも通じるものだと思います。地域課題の解決には、これら多岐にわたる分野を個々別々に捉えるのではなく、例えば、食事・食材の提供とフードバンクの組合せのように複合的にアプローチすることが欠かせません。コープさっぽろは組合員の皆様の参加による協同組合活動であり、販売・加工の拠点や物流などの総合力を備えているからこそ、ソーシャルビジネスを通じてコミュニティが抱える問題に密接に関わることができるのだと思います。

そして、こうした挑戦を支えてきたのが組合員と職員のつながりに他なりません。発足50周年を記念して行われた事業の成果をまとめ、昨年発行された「思い出の小箱全集」には、売り場やレジ、地域での様々な出会いと心動かされた出来事、胸に残る言葉の数々が綴られており、このようなつながりこそがコープさっぽろの原動力なのだということが伝わってきます。

今年は、この島が北海道と命名されて150年の節目です。私たちは先人の方々に改めて感謝するとともに、私たち自身も次の世代のより良い暮らしの土台を築いていかなければなりません。そのため、コープさっぽろには、これからも住民と企業・団体、行政の連携・協働を“つなぐ”プレーヤーとして持てる力を一層発揮し、人口が減っても心豊かに住み続けられる社会の新たな価値やシステムづくりにさらなる貢献をされるよう期待したいと思います。

つなぐ
COOP
SAPPORO

コープさっぽろ 秘書室
札幌市西区発寒11条5丁目10-1 〒063-8501
TEL.011-671-5602
http://www.coop-sapporo.or.jp